

第46回「全日本中学生水の作文コンクール」
宮城県地方審査会優秀作品集

第1回宮城県中学生水の作文コンクール
審査会優秀作品集

『水』について考える

宮 城 県

はじめに

水は命の源です。水は、私たち人間だけでなく地球上のあらゆる生物にとって欠くことのできない貴重な資源です。また、使えばなくなってしまう石油などの化石燃料とは異なり、太陽の恵みによって太古の昔から変わらずに地球上を循環している資源でもあります。

このような循環を通じて、水は私たちの日常生活や社会活動、あるいは自然環境や生態系を支える貴重な役割を果たしています。加えて、最近では、水源や流域における水質の保全、水辺環境の保全と創出、おいしい水への志向など水資源に対する国民のニーズも多様化しています。

一方で、我が国は比較的降水量に恵まれているとはいえ、地形は急峻で平地が狭いため、一人ひとりが利用できる水の量は決して豊富とはいえません。近年、全国のいたるところで渇水が発生し、私たちの社会生活に大きな影響を与えています。

このような状況の中、水循環基本法では、8月1日を「水の日」と定めており、この日を初日とする1週間は、「水の週間」として、国や県が、水の貴重さや水資源開発の重要性などについての理解を深めるための様々な啓発活動を行っています。

こうした啓発活動の一環として、これまで国土交通省主催の「全日本中学生水の作文コンクール」において地方審査会を担当しておりました。令和6年からはより県民の皆さんに水の大切さについて知ってもらうために、宮城県主催の「宮城県中学生水の作文コンクール」を実施することとしました。日常生活での体験や、御家族、先生方から学び聞いた話などに基づいて作文を書くことで、次代を担う中学生の皆さんに、水について考える機会を持っていただくことを目的としたものです。

「宮城県中学生水の作文コンクール」に応募いただいた作文のうち、特に優れた作品については次年度に開催される国土交通省主催の「全日本中学生水の作文コンクール」の中央審査会に推薦します。

このたび、今年度実施した「第46回全日本中学生水の作文コンクール」宮城県地方審査会及び「第1回宮城県中学生水の作文コンクール」審査会の優秀作品を作品集にまとめました。多くの方にお読みいただき、「水」について考えるきっかけとしていただければ幸いです。

最後に、作文コンクールの実施に当たり、応募された中学生の皆さんや担当の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

令和7年3月

宮城県環境生活部環境対策課

も く じ

第 46 回「全日本中学生水の作文コンクール」宮城県地方審査会優秀作品

●優 秀 賞（3 編）

・ 当たり前の水	岩沼市立岩沼中学校	松野 滯 ……………	2
・ 私たちの美しい地球	仙台市立郡山中学校	菅原 波瑠 ……………	3
・ 水で繋がる命	石巻市立石巻中学校	濱名 幸音 ……………	4

●入 選（2 編）

・ 当たり前の水の大切さ	岩沼市立岩沼中学校	芝原 優太 ……………	5
・ 水と生きる	仙台市立郡山中学校	佐藤 詩 ……………	6

●第46回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要 ……………	7
----------------------------------	---

第1回宮城県中学生水の作文コンクール審査会優秀作品

【1年生部門】

●優 秀 賞（2編）

- | | | | |
|------------------|------------|-------------|----|
| ・「再生可能な暮らし」と「水」 | 宮城県仙台二華中学校 | 齋藤すみれ …………… | 10 |
| ・めぐる水～故郷の川を守るために | 石巻市立蛇田中学校 | 坂本 悠維 …………… | 11 |

●佳 作（2編）

- | | | | |
|------------|------------|-------------|----|
| ・水を次の命につなぐ | 石巻市立河南東中学校 | 三浦 栞奈 …………… | 12 |
| ・水と親しむために | 宮城県仙台二華中学校 | 中川 修一 …………… | 13 |

【2年生部門】

●優 秀 賞（1編）

- | | | | |
|-----------------|------------|-------------|----|
| ・「復興を遂げた生き物の楽園」 | 宮城県仙台二華中学校 | 針生 楓永 …………… | 14 |
|-----------------|------------|-------------|----|

●入 選（2編）

- | | | | |
|--------------|------------|-------------|----|
| ・世界の大切な水を未来へ | 気仙沼市立唐桑中学校 | 千葉梨璃衣 …………… | 15 |
| ・大好きな川と海のために | 塩竈市立玉川中学校 | 坂内 聡介 …………… | 16 |

●佳 作（1編）

- | | | | |
|------|-------------|------------|----|
| ・命の水 | 気仙沼市立気仙沼中学校 | 横山 葵 …………… | 17 |
|------|-------------|------------|----|

【3年生部門】

●優 秀 賞（1編）

- | | | | |
|----------------|------------|-------------|----|
| ・一人一人の行動で変わる未来 | 仙台市立向陽台中学校 | 高畑 花音 …………… | 18 |
|----------------|------------|-------------|----|

●入 選（1編）

- | | | | |
|-----------------|------------|-------------|----|
| ・セーヌ川から水質問題を考える | 仙台市立上杉山中学校 | 鶴谷 莉子 …………… | 19 |
|-----------------|------------|-------------|----|

●佳 作（1編）

- | | | | |
|--------|-------------|-------------|----|
| ・「水は命」 | 大河原町立金ヶ瀬中学校 | 中村 美音 …………… | 20 |
|--------|-------------|-------------|----|

●第1回宮城県中学生水の作文コンクール募集概要 …………… 21

●「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者 …………… 23

第46回

「全日本中学生水の作文コンクール」宮城県地方審査会優秀作品

【優秀賞】

当たり前の水

岩沼市立岩沼中学校

二年 松^{まつ}野^の 霽^{はら}

どこにでもあり、いつでも手に入る「たかが水」。それが前までの私の水への考え方でした。喉が乾けば水を飲む、手を洗う時に蛇口をひねれば水が出る。それは日常生活において当たり前、誰もがそう考えているはずだと思っていたのです。

しかし、今年の三月十一日。母から聞いたある話で、私の水への考え方が変わりました。

三月十一日。それは誰もが知る『東日本大震災』が起きた日です。その当時の私はまだ〇歳、当然ひとりでは動けません。そんな私を抱え、母は地震が続く中、安全な場所まで避難しました。

情報が手に入りにくい中、津波の接近。母や他の大人たちはその情報から、水の恐ろしさを悟ったそうです。

幸い、私たちがいたところまでは津波は来ず、翌日家に戻れました。

しかし、水は止まり、電気も来ず、さらに水道の復旧工事は市の中でもかなり遅れ、いつもは手を伸ばせば手に入った水がなかなか手に入らないという状況に立たされました。そのときに、被災者はみな水の貴重さというがたみに気付いたそうです。

震災から三日目には母の友達が物資を届けに来てくれました。それも青森からとても時間をかけてきてくれたのです。母がなぜ混乱の中ここまで来てくれたのかを尋ねると、その友達は、

「大人はまだ我慢できるけれど、まだ小さい子にはミルクを飲むにも体を綺麗にするにもたくさんの清潔な水が必要だから、被害を受けていない自分が届けに来た」

と言い、〇歳の私のために、水道が復旧してからもしばらくはたくさんの水をくれたそうです。

母は昔から友達が多かったそうです。よく海へと遊びに行っていたようですが、その思い出と共に、海の近くにあったものは全て流されてしまいました。その事実を受け入れがたく、現地に行くのは躊躇っていた母の背中を押したのは、母の祖母でした。

「片付けられる前に一回見てきなさい。このことを覚えていけるのは私たちのような経験した人間だけなんだよ。」

そう母に語りかけ、わざわざ沿岸部に連れて行ったそうです。

そこで母が見たのは原型をとどめていない建物の瓦礫、家に乗りがつた船、一夜にして変わり果てた景色でした。絶望感が押し寄せてきたと同時にこれは絶対に語り継がなければならないと思ったそうです。

このような話を聞き、私は震災のことをもつと知らなければならないと思うと共に、当たり前だった水は私たちが生きるために絶対に必要で、本当は簡単に手に入らないこと、時には自然の厳しい一面も見せることに気づかされました。

水は資源というものの以上に、私たち地球の生物の命そのものと言えるかもしれません。

水を守る、大切にするというのは自分たちの命を守ると同じこと、水の使い方を誤れば人間の命を奪う凶器になってしまいます。

自然災害のように、時折暴走してしまうこともあります。それに対して少しでも被害を食い止めるための対策と予防を実行していかなければいけません。

つまり、水の利便性と危険性を理解して、正しく安全に使わなければならない。それが、私たちの水を使うことへの責務だと思います。

私は母の話から多くのことを考えさせられ、たくさん学びました。この貴重な話から学んだことを心に刻み、穏やかで恩恵をもたらしてくれる「水」を大切にし、いつまでも「当たり前」にしていきたいものだと考えたのです。

【優秀賞】

私たちの美しい地球

仙台市立郡山中学校

三年 菅^{すが}原^{はら}波^は瑠^る

私は去年の夏、家族で近くの港まで釣りに行きました。私にとって初めての釣りで、魚を釣るぞとワクワクしていましたが、柵越しに海を見てみると、そこにはたくさんのごみが浮かんできました。カップ麺の容器やお菓子の袋、紙や割り箸などが大半です。その時のワクワクしていた気持ちも沈んでしまい、なんでこんなにごみがあるのだろうか？とそこに行くたびに思うようになりました。このごみは誰かが片付けない限りずっとそこに残ってしまう。そのままはどうなってしまうのか。疑問に思い調べてみると、プラスチックは非常に安定性が高く分解されるには時間がかかるとのことでした。一番分解されやすい「吸い殻」で一・五十年、身近なペットボトルは四百年、釣り糸に至っては自然分解されるのに六百年もの時間がかかるのです。私は、ペットボトルや釣り糸が人間の寿命の何十倍もこの地球上に残り続けると知り、とても驚きました。分解されることなく残りつづけるプラスチックごみが影響を与えるのは、海の生態系だけではなく、漁業やダイビングなどの観光業、私達の生活にまで及ぶことがわかりました。海の生物のプラスチック誤飲による命の危険、傷ついた魚が増え漁獲量が減る漁業、汚れた海での観光が避けられ収入が減っていく観光業。私が思っていた以上に海洋ごみの影響は大きく、深刻なものでした。

そのため、以前に家族旅行の際立ち寄った海で私はごみ拾いをしました。やはりそこにも少なからずごみは落ちていて、ネットやタバコ、メガネなどどれも身近なものばかりでした。改めて自分で体感し自分の目で見ただことで、より海を美しく守って行くために自分ができることから積極的

にやって行こうと思いました。

また、プラスチックが劣化し五ミリ以下ほどまで小さくなったものをマイクロプラスチックと呼びます。それを魚たちが食べ、私達が食べるまで残っていたとしたら。海に捨てられた物は巡り巡って自分たちのもとへ戻ってくるのです。そう思うと、海洋ごみの問題がいかに深刻なのかがよくわかります。海洋ごみが増えつづけることにいいことなんてないのです。

二〇五〇年にはプラスチックゴミの量が世界の魚の量を超すとも言われています。「まだ先の話だから」私はよくそのように考えてしまう癖があるのですが、まずその意識から変えていくことが必要だと感じました。海洋ごみ問題を今のこととして捉え、一人ひとりが少しずつ意識や生活を変えていかなければなりません。ごみはごみ箱へ、紙は燃えるごみ、プラスチックは燃えないごみ、当たり前に分別して捨てる。そんな小さなことを自分一人がやっても変わらない、そう思うかもしれません。でも、地球上にいるのは決して一人だけではありません。「塵も積もれば山となる」。どんな些細なことでも、やがては地球の未来を変えるのです。

海に住む生き物たちは声を上げることが出来ません。だからこそ、私達人間が気づき、行動し「今」を、そして「未来」を変えていくことが大切なのです。一人ひとりができること、小さなことから実行してみましよう。私達の住む美しい地球を永遠に、守って行くために。

【優秀賞】

水で繋がる命

石巻市立石巻中学校
三年 濱 名 幸 音

「地震！」

母の言葉に家族の和やかな時間が一瞬で緊張した雰囲気になりました。新しい年を迎えた夕方、お正月のお祝い空気の中、茶の間で小さな揺れを感じました。そしてそのすぐ後、テレビから流れたニュースに私は言葉を失いました。令和六年一月一日十六時十分頃、石川県能登地方を最大震度七の地震が襲ったのです。

ほどなく日本海沿岸に大津波警報が発表されると家族の顔色が変わりました。東日本大震災で津波がもたらした甚大な被害が蘇っているのだろうと思いました。私は当時一歳で記憶が全くないのですが、家族や学校の先生から当時の出来事や体験を聞いてその恐ろしさは知っていたつもりでした。しかし、能登半島地震発生後、日を追うごとに明らかになってくる被害の大きさは私の想像をはるかに超えるものでした。

能登半島地震で観測された津波は輪島港で一・二メートル以上。一部の沿岸部で残念ながら住宅被害が出たそうです。東日本大震災で観測された津波は福島県相馬で九・三メートル以上。石巻市の鮎川で七・六メートル以上。女川漁港では何と十四・八メートルの津波痕跡も確認されているそうです。私の身長は一・六メートル。その何倍もの高さの水がものすごい勢いで自分に向かってきたらと思うと足がすくむ思いです。母は女川町を襲った津波で尊敬する友人を失ったそうです。大好きだった故郷の海や川を憎んでしまいたくなったと話していました。

能登では建物が倒壊し、大規模火災も発生しました。そして、多くのけが人が手当てを必要としていました。政府は非常災害対策本部を設置し、

警察や消防、自衛隊、海上保安庁を中心に、懸命の救命、救助活動に当たったそうです。その際に「水」は、火を消し、手当てや救助などの全ての活動に欠かすことのできない重要な役割を担っていました。私は、被災者の命を救う全てのことに「水」が深く関わっていることを知り、水は姿を変えて多くの大切なものを飲み込んでしまうこともある、恐ろしい存在であると同時に、私たちの命を繋ぎ、生きていく上で欠かせない存在でもあるということを改めて感じました。

連日、能登の被災地での様子がテレビに映し出される中、どれだけ日々の「普通」の暮らしの中で水が重要なかがよく分かりました。お風呂やトイレ、飲料水の確保。更には人工透析などの医療には不可欠で、乳幼児や高齢者などの衛生環境を守る上でもなくてはならないのが水です。さらに詳しく調べてみると、普段何気なく使用している水の量は一人当たり一日約二百三十リットルで、牛乳パック二百三十本分の量の水を当たり前のように使用していたことを知り驚きました。蛇口からきれいな水が流れる今の日本では必要な分の水をもしかしたら必要以上に毎日何気なく使っていて、その重要性を考えることもなかったことを反省しました。

元日に発生した能登半島地震が水資源の大切さについて深く考えるきっかけとなり、中学三年生の私にもできることがたくさんあると気付くことができました。日々の暮らしの中でシャワー使用時や手を洗う時、歯磨きなどの際に流しっぱなしにせずに節水を心がけること。水源である山や川、美しく豊かな自然を守り続けること。そして、東日本大震災を経験した身近な人たちから学んだことを生かし、雨水の利用や自然災害への備えができるようになりたいと思います。

水は私たちの生命を守る重要なものであり、その限りある資源を大切に活用し、今回学んだことをしっかりと未来に繋げていける大人になりたいと思います。

【入選】

当たり前の水の大切さ

岩沼市立岩沼中学校

二年 芝原優太

富士山は静岡県と山梨県が誇る日本一の高さの山だ。僕が小さな頃住んでいた静岡県の祖父母の家は富士山のふもととも言える場所だったため、とても景色が良く、家を出るとすぐに大きな富士山が見えた。

その祖父母の家に久しぶりに帰り、喉がかわき、水道水の水を飲んだ。とてもおいしかった。それもそのはず。その水は富士山からの水だったのである。こんなにおいしい水道水を飲んだことがない。僕はそのおいしさに心から感動した。

日本に住む私たちが飲んでいる水はとてもおいしい。このおいしさを、自分も含めて日本人は忘れているのではないか。

そこで、日本とアフリカの水道水の違いについて比較してみた。日本では水道水ができるまでにいろいろな工夫を施し、誰が飲んでも害がないような水をつくっている。つまり安全な水だ。だが、アフリカの地域の水道水を飲むと、危険であったり、飲むことにも注意が必要だったりするそうだ。そもそも水道水をそのまま飲める国は世界でも十数カ国しかないらしい。その理由の一つとして挙げられるのがインフラだ。要するに施設や水道管が十分に整っていないのである。

先ほど日本の水道水は安全であると記したが、そんな日本でも、ひと昔前までは水はとても汚れていたのである。

一八八七年。横浜市で初めて水道水が供給された。その当時は水を濾過し、圧力をかけていただけだったため、当然のことながら赤痢などの水系感染症の被害が広がってしまった。これをきっかけに日本の水道インフラ整備が始まった。その後も生活水準の向上による水の需要に対応するべく

急速に発展した。一九五〇年に二十七パーセントだった水道普及率が八十年には九十パーセントを超えたのである。

単に「水」と言っても私たちが使う水は水道水だけではない。さらに、水というのは人間の身体の七割を占めている。だが、そんな日常的な、そして、生きるために不可欠な「水」が不足しているという話を耳にした。

具体的に言うと、国連食糧農業機関では二〇二五年までには全人口の三分の二が水不足に陥る可能性があるとして示しているのである。ここで僕は考えた。水がなくなると水道水どころの話ではない。生命に大きな危険が生じるということを。そもそもの話、この問題の原因の一つが世界的な人口増加に伴った大量の食物生産だ。世界では人口が今もなお増え続けていて、増えるにつれて必要となる食料も増加していく。その食料の大半は作物を示しており、その作物をつくるのに多くの水が必要になってくるのである。この問題を解決するためと言って人口増加を制限するわけにもいかない。となると、やはり使用する水の量を減少させるしかないのである。そのためにはどうすればよいのか。農業のことは自分もよく分からないが、どのみち環境を悪化させず、無駄な水を出さなければ良いはずだ。それは一人ひとりができる節水方法と同じであり、水道水でも、トイレや風呂でも何にでも通用することだと思う。一人ひとりで水をこまめに止めることができるのなら、農業では必要最低限の水を使うことができるはず。一人ひとりが洗濯の方法に工夫を凝らすことができるのなら、農業では水やりの方法にも工夫を凝らすことができるはずだ。僕はいつもできていたことを応用させて行うことを大切にしている。それは誰にでもできるはずだ。

日本の水道水はとても安全だ。そして富士山の水はとてもおいしい。当たり前すぎるくらい素晴らしい日本の水を「当たり前」だと思わず、一滴一滴を大切にこれからも生活していくべきだと僕は考える。

【入選】

水と生きる

仙台市立郡山中学校

三年 佐藤 詩

キラキラ井とは、宮城県北東部の三陸海岸南部に位置する町、南三陸町のA級グルメで、地元産の海鮮をふんだんに使った見た目も味も豪華な、その名の通り「キラキラ」した井ぶりのことである。

私も一度南三陸町を訪れた際これを食べたことがある。やはり地元産だからだろうか、海鮮の鮮度が高くいくらが宝石のようにキラキラしており、とても美味しかった。

その見た目と味に魅了された私は、インターネットでキラキラ井について調べることにした。

調べてすぐに、キラキラ井は東日本大震災と関わりがあるということが分かった。

キラキラ井は町おこしの一環として考案されたご当地グルメで、震災前から提供されていたが、震災のときに津波の被害を受け、提供が一時中断された。その後二〇一二年に提供を再開し、キラキラ井は復興のシンボルとなったそうだ。何気なく食べたキラキラ井が復興のシンボルだということを知って、とても驚いた。

東日本大震災。これにより南三陸町は大きな被害を受けた。マグニチュード九・〇、最大震度七のゆれを観測した東北地方太平洋沖地震の被害も大きかったが、津波による被害の方がより大きかった。

死者五百六十六人、行方不明者三百十人。津波の高さは三階立て庁舎屋上を二メートルも上回ったそうだ。

当時、防災対策庁舎では繰り返し「高台へ避難してください。」と防災無線で呼びかけ続けていたそうだが、そこに避難していた約三十人のう

ち、助かったのはわずか十人である。なんて悲惨なことだろう。このように水は、人に害を及ぼす。が、逆に人が水に害を及ぼすこともある。

近年、地球温暖化による海水温の変化が、魚などの水生生物のすみかに影響を与え、漁獲量の低下をまねいているそうだ。

地球温暖化の進行には様々な原因があるが、エネルギー発電による温室効果ガスの排出など、人的要因が多い。このまま温暖化が進み漁獲量が減少してしまうと、あのキラキラ井や私達が普段口にしている魚はもう食べられなくなってしまうかもしれない。

私は、キラキラ井を通して、水の「恵み」と「災害」の二面性について学んだ。

東日本大震災の津波の被害など、水は人に害を及ぼし、時には多くの人の命を奪う「災害」となる。一方、水は農業や漁業など、私達の食や生活を豊かにする「恵み」であり、生きることにかかすことのできないものでもある。

しかし、私達の今の生活のままでは、水の恵みに大きな影響を与え、結果として人類に害を成すのだ。

水と共に生きること。それは、私達が普段何気なく送っている生活だが、多くの課題もある。その課題を解決し、未来につないでいくには、水がもたらす災害と恵み。そして、人が水に与える害。これらの観点で水と向き合い、考えていくことが大切なのではないだろうか。

未来にキラキラ井をつないでいきたい。

私は今日も水と生きる。

《第46回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要》

1 作文のメインテーマ

「水について考える」（題名は自由）

2 応募資格

令和6年度に在学中の中学生

3 原 稿

400字詰原稿用紙4枚以内で、日本語により表記された個人作品に限ります。

4 応募締切日

令和6年4月24日（水）必着

5 応募方法

作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に①題名、②学校名（ふりがな）、③学年、④氏名（ふりがな）を記入し、次の送付先に示す宛先に送付してください。

6 問合せ・送付先

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号

宮城県環境生活部 環境対策課 環境影響評価班 あて

問合せ先 電話：022-211-2667（直通）

Eメール：kantaie@pref.miyagi.lg.jp

7 審 査

応募作品の中から、県の地方審査会（県予選）で内容が優秀と認められる作品10編程度を選考し表彰します。また、これらの中から特に優秀と認められる作品5編以内を選考し、国土交通省の中央審査会（全国大会）に推薦します。

なお、選考に当たっては、次の観点から審査します。

- ・抽象的あるいは観念的なものでなく、日常の生活や学習、地域における水とのかかわり等を通じて得たことが、具体的に盛り込まれていること。
- ・「テーマ」が的確に設定されており、水の貴重さや水資源開発の重要性、水環境の大切さ等が、中学生らしい視点で記述されていること。
- ・将来の夢や希望、提案等が盛り込まれていること。

8 賞及び賞品

(1) 地方審査会（県予選）

- ・優秀賞：3編程度（賞状、副賞）
- ・入 選：3編程度（賞状、副賞）
- ・佳 作：4編程度（賞状、副賞）

(2) 中央審査会（全国大会）

- ・最優秀賞（内閣総理大臣賞）：1編（賞状、副賞）
- ・優秀賞：9編程度（賞状、副賞）
- ・入選：30編程度（賞状、副賞）
- ・佳作：中央審査会へ作文が送付された者のうち、最優秀賞、優秀賞、入選の受賞者を除く者全員（記念品）
- ・一日事務所長体験：最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち、希望者

9 入賞発表

(1) 地方審査会（宮城県予選）

在校する中学校を通じて御連絡します。

(2) 中央審査会（全国大会）

在校する中学校を通じて御連絡します。

※入賞作文については、作文のほか、記載された学校名、学年、氏名を国土交通省及び宮城県のホームページや作品集に掲載するほか、宮城県庁内での展示や報道機関を含めた関係者へも提供することとなりますので、予め御承諾の上、御応募ください。

10 版權等

- ・応募作品は自作の未発表のものに限ります。
- ・入賞作品の使用権は、主催者に帰属します。
- ・応募作品の返却は行いません。

11 個人情報の取扱い

本コンクールの応募作品に記載の個人情報は、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。応募者の同意なく、利用目的を超えて転用することはありません。

12 その他

下記ホームページに募集案内を掲載していますので、御参照願います。

○国土交通省

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tk1_000010.html

○宮城県

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/mizusakubun.html>

第1回

宮城県中学生水の作文コンクール審査会優秀作品

【優秀賞】

「再生可能な暮らし」と「水」

宮城県仙台二華中学校

一年 齋藤 すみれ

水は私たちの生活に欠かせないことを知っているだろうか。特に、川の水は用途が広い。まず、農業用水として利用される。私たちが普段食べているものすべては、直接的にも間接的にも川の恩恵を受けているに違いない。そして、水道水としても利用されている。川の水は手間ひまかけて浄化され、蛇口をひねればすぐに水が出る。すぐに水を使えることのありがたさは計り知れない。さらに、私たち人間を含む生物や植物などの自然を育む。川の水は自然はもちろんのこと、海と陸をつなぎ、陸からの栄養分を海に運ぶ。結果、海の水も育んでいるのだ。その後、川や海の水は雨雲となり、大地に雨を降らす。「川は私たちの命の源」と言っても過言ではないだろう。

話は変わり、祖父母の家は福島県にある、自然豊かで農業が盛んな地域だ。祖父母も野菜や果物を育てている。帰省した際に振舞ってくれる新鮮な野菜や果物を私も家族も楽しみにしている。また、そこからは吾妻小富士という山が見える。山に積もった雪の形から「雪うさぎ」という名前で親しまれている。しかし、先日帰省すると、異変があった。吾妻小富士の広範囲の地表の木がなくなり、地中の土がむき出しになっていたのだ。

「あそこ、削れてるね」私は吾妻小富士を指さし、言った。母は祖父からそのことについて聞いていたらしく、あれこれ教えてくれた。私はその内容に衝撃を受けた。そもそも、山が削れていたのは、土砂崩れなどの自然災害ではなく、人によるものだった。つまり、人が木を伐採したということだ。なぜ、人は木を伐採したのか。それは、太陽光パネルを設置するためだった。

広範囲に渡って、木を伐採することには様々なデメリットがある。私がかでも注目したのは災害の危険性だ。木の伐採による山の保水力の低下が主な原因となる、泥水の流出や土砂崩れなどが懸念されている。祖父に実際に災害は起きているのか質問した。実際に山から流れてきた土砂が田の水路や道路の下に溜まり、農業に影響を与え、祖父母や農家の方々は、大変困っているそうだ。土砂は業者が取り除いているものの、大雨が降ると、土砂崩れが起こり、川に流れてくる。土砂の混ざった川の水は当然、農業に使用することはできない。また、水が汚染されることによって、生態系が崩れたり、水道水の価格が高騰したり、最悪の場合、使えなくなったりすると私は考える。やはり、川の水は人間にも生物にも植物にも不可欠な存在だ。私は川の水を守りたいと強く思った。

さて、私が思う「再生可能」とは、人間、動物、植物、地球、誰にも負担をかけず、それぞれを切り離さず、物事を続けられることだ。「再生可能」エネルギーと言われ、世間の注目を集める太陽光。太陽光パネルを設置するため、森林を切り開き、それによって川に土砂が流れ込む。私たちの生活を支える川が汚染され、生活に影響を与える。これは私の思う「再生可能」ではない。

私はふと思った。水がないと生きていけないのは現在の私たちだけではない。大昔の人々も水がないと生きていけなかっただろう。どの時代の人々もが、次の時代の子孫のことを想って大切にしてきた「水」というバトンを私たちは受け継いでいる。だから、私たちは川の水に限らず、「水」そのものを守っていかないとけない。

私が「再生可能」な範囲で水を守る方法。それは限られている。それに、「水を守る」とは何かなんて誰にも分からない。しかし、きれいな水を守り続けることは地球共通の願いだ。そのために私は、油を下水に流さないこと、川や海、湖に行ったときはゴミを持ち帰ること、節水をすることを徹底する。いつになっても、「水を守る」というこの気持ちは忘れない。

【優秀賞】

めぐる水く故郷の川を守るために

石巻市立蛇田中学校

一年 坂本悠維

私の夏は、ある小さな疑問を持ったことから始まりました。聞こえてくるのは、川のせせらぎ。そう、私は北上川を巡る大冒険に出発したのでした。私が父と地元である石巻市をドライブしていたときのことです。雄大な川の流れに魅せられた私は、父にこの川の名前を尋ね、北上川であることを教えてもらいました。

北上川とは、岩手県中部を北から南に流れ、宮城県東部の私が住む石巻市の追波川に注ぐ一級河川だということが分かり、ますます興味を持ちました。

調べる中で、二つの疑問を持ちました。一つ目は、北上川の水源はどこにあるのかです。二つ目は、北上川は流域によって、形状や流れ、水質が異なるのかです。実際に目で見て調べてみたいと思いました。そこで、父に頼んで、自分で調べた北上川の水源まで車で連れてってもらうことにしました。

北上川の水源は、七時雨山麓や丹藤川、西岳山麓などいろいろな説があります。私は国土交通省が定めた水源である弓弭の泉と七時雨山麓を目指しました。車で石巻市から岩手県の源流まで川沿いを走る道のりはとても長いものでした。川幅が広くゆったりと流れる場所もあれば、源流近くでは川幅も狭く、さらさらと流れている場所もありました。また、街中に沿って流れている場所もあれば、自然の中に溶け込んでいる場所もありました。それだけ北上川が長い川であることが実感できました。

私は北上川の源流を目指しながら、いくつかのポイントで水質検査を行いました。まず、身近な石巻市で検査を行いました。その結果は驚くもの

でした。水が濁っていて、水質も汚れているということを示していたのです。次に訪れたのは、岩手県紫波町です。石巻市と似ており、市街地に沿って流れる川でした。この水はとても濁っていて、匂いもしました。水質も化学的酸素供給量が多く、とても汚れているということを示していました。美しいと思っていたこの北上川が汚れているという事実には衝撃を受けました。次に訪れたのは、岩手県の弓弭の泉です。ここは山奥にあり、周りには殆ど、住宅がありませんでした。お寺の脇にある御堂観音で採取した水で検査すると、化学的酸素供給量以外は全く汚染されていないという結果が出ました。これまでとは異なり、とてもきれいな水だということが分かりました。最後に、北上川の源水である七時雨山麓です。ここは山奥にあり、青々とした木々に囲まれた自然豊かな場所でした。水はとても透き通っており、私はその水の美しさに釘付けになってしまいました。検査の結果、水質は全く汚染されていないという結果が出ました。北上川の水源は美しかったのです。

石巻に流れる北上川もこのようにきれいであったらいいなと思った私はどのようにすれば私たちの北上川をきれいにすることができののかと考え、専門家の話を聞いてみようと思いました。そこで、北上川下流河川事務所を訪ねて質問しました。すると、下流では、生活排水や工業排水などで汚れていることを教えてもらいました。

そこで生活排水を少なくするためにできることを調べました。そこには、食器などを洗う際に、先に紙などで拭いたり、使った水をもう一度使ってから捨てたりする方法を知りました。自分にもできることだと思いました。

水は生活に欠かせないものです。だからこそ、私たちはこの豊かな水を大切に守っていかなければならないと思いました。一人一人ができることは小さいかも知れませんが、小さな源流が大きな川の流れを生み出すように、みんなで力を合わせて自分にできることをすることで、さらに美しい北上川を生み出していきたいと思いました。

【佳作】

水を次の命につなぐ

石巻市立河南東中学校

一年 三浦 奈

蛇口をひねれば出てきて、それに何の疑問を持たずに飲むことができる。私たちは、それが当たり前になっているけれども、それは日本に生きているから当たり前になっているだけでとても幸せなことである。そして、そんな水が豊かであるからこそ、私たちが普段口にしているお米もおいしく食べることができるのだ。私たちはその当たり前を当たり前と思っではいけないのでしょうか。生きるために必要な水、それに生きるために必要なお米。これからも美味しいお米、おいしい水を食べ続ける、飲み続けるためにもお米と水はとても大切にしないとけない。お米とお米に必要な水を、次の世代にもつなげないといけないと思う。

いつも食卓に当たり前のように出てくるご飯。私の家のご飯は自家製米だ。五月に近づくにつれ、田植えが始まる。私は田植えが始まる前に家族で一生懸命準備をする。私は、毎年田植えを手伝っている。

五月は「ゴールデンウィーク」がある。しかし、私の家族は「ゴールデンウィーク」と書く。お父さんが「我が家は農家だから名付けた。」と言っていた。田植えの日になると家族総出で田植えをする。私にとってお米も水も身近な存在で、当たり前にあるものだから、水の大切さなんて考えたこともなかった。田植えが終わって、何日か経ったある日、お父さんとおじいちゃんが会話していたので私もその会話に入った。お父さんが、「今年は雨がなかなか降らない。」

と言っていた。私はなぜお父さんとおじいちゃんが雨が降らないことで困っていたのかその時の私にはわからなかった。

私は二人の会話を聞いたり、ニュースを見たりして、知った。お米は水

がないと美味しく食べることができないのだ。水不足が原因で、いつものように田んぼに水が入れられなくなってしまう。地域ごとに計画的に水を入れなければならない。猛暑などでお米がうまく育たなくなるなど、ニュースを見て私はとてもびっくりした。色々な人がお米を育てているので大量の水が必要なことを知った。私はお米を作るのを手伝っているにも関わらず、いつものように日常を過ごしていることを知りすぐ後悔している。私がいつも通り過ごしている時には、お父さんとおじいちゃんがとても悩んでいたと思う。私は「水が無いとお米が育たない」と思うと、とても苦しい生活になるのではないかと私は心配している。

お米は人間にとって大切な食べ物だ。お米にとって水は私たち人間以上になくてはならない存在である。水が不足すればお米の生育が妨げられて、上手く育たず美味しいお米ができなくなってしまう。そのためにも、日本に住んでいる皆さんは、水を大事にしないとけないのだ。去年は、家族総出で頑張ったお米をみんなで夜ご飯の時に食べた。お米がたくさん作られている日本という国は、世界に類を見ない国であることが分かった。つまり、お米がたくさん作られている国は、豊かな水がある。それは当たり前ではないことなのだ。

普段あまりに当たり前すぎて気づかなかったが、その豊かな水も私たちの心がけ次第で変わってしまう。水は私たちの生活の最も大事な土台にあつて、その土台で支えてくれている。飲み物として、清潔を保つため、お米を作るためなど、蛇口をひねって出てくる水を飲むことができる国は世界でたった十二ヶ国しかない。そのため私は、水を大切に飲まないといけないと思う。私たちは、美味しいお米を食べている。美味しいお米を食べることができるのは、お米と水が強く結びついているからなのだ。私たちは、そういう国で生活できていることをもっとと知るべきだと私は思う。

【佳作】

水と親しむために

宮城県仙台二華中学校

一年 中 なか 川 がわ 修 しゅう 一 いち

僕が「水」と聞いて一番最初に思い浮かぶのは「プール」である。

僕は小さい頃からスイミング教室に通っている。水にプカプカと浮かんでいるのは心地良いし、大会でベストが出るととてもうれしい。だから、水泳はとても楽しいと僕は思う。そして、世界中の人々がこの楽しさに気付けるよう、世界中のどこに住んでいたとしても水と関われる世界になっていってほしいと思う。

僕はこのような世界にしていくにはどうしたら良いのか考えてみた。まず、そのために必要不可欠なことのひとつとして「川や海の水がきれいであること」があげられる。プールがない国で水で遊ぶには川や海に入るしかない。しかし、川や海などの水が汚れていると水に入ることすらできない。入ると病気になる恐れがあるからだ。だから、僕はプールがない国に住む人たちが安全に水に入って遊べる世界を目指していきたいと思う。

僕はこのことについて考えていてフランスのセーヌ川を思い出した。

セーヌ川は今年のパリオリンピックでトライアスロンなどの競技の会場となった川であり、フランス北部を流れている。大雨の時に生活排水が流れ込んだり、産業排水が流れ込んだりしてしまったことが原因で水質汚染が問題となっている。このセーヌで競技を行った選手の中で体調を崩した人も少なくない。あのような川では水と親しむことの本当の楽しさに気付くことはできないと思う。

セーヌ川の水質汚染について調べていたら新たに二つの川の名前がでてきた。

一つ目の川は「ガンジス川」である。この川はインドを流れる川で、イ

ンドでは聖なる川とされていて、沐浴や生活用水に使われている。水源はヒマラヤ山脈のガンゴトリ氷河で上流では透き通った水が流れている。しかし、インドの都市を通るときに排水や遺体、遺灰が流され、下流に行くにつれてどんどん汚くなっていく。そして、この川は世界で最も汚い川の一つとされている。

二つ目の川は「テムズ川」である。この川はイギリスを流れる川である。昔、下水が流れ込んでいて「大悪臭」と呼ばれるほどにおいがすごかったことや、汚すぎて生物がいなくなり「生物学的な死」と科学者たちにいわれたこともあった。しかし、下水施設が整備されたことによって生物が戻ってきていたこともあった。しかし、近年下水施設の老朽化や、人口の増加によって下水管が対応しきれいなくなったりしてまた川が汚くなりつつある。大きな下水管をつくるという計画があるらしいので、これによってまた川がきれいになったら良いと思う。

この三つの川には「下水が川に流れ込んでいる（流れ込んでいた）」という共通点がある。つまり、多くの場合川の水質汚染の原因は下水の流出によるものであると考えられ、水質汚染を抑えるためには下水設備を整えるなどの取り組みをしていくことが必要になってくるといえる。個人では新たに下水管をつくるなどの大掛かりな取り組みはできないが、家庭から出る排水をなるべく減らす、なるべく油や洗剤などを流さないなどのもし川に下水が直接流れ込んでしまっても川への影響が少なくなるように対策をすることならできると思う。

僕は、ごみをしっかりとゴミ箱に捨てたり、使う洗剤の量をなるべく減らしたりして川や海を汚さないようにしていきたいと思う。そして、世界中の人が安全に水と親しめる世界になっていったらいいなと思っている。

【優秀賞】

「復興を遂げた生き物の楽園」

宮城県仙台二華中学校

二年 針生 楓 永

「世界に一つだけの卒業証書・石巻の小六能登で被災の職人と紙すき。」
今年の六月、新聞の小さな記事が私の目にとまった。

記事の内容は、宮城県石巻市北上小学校の六年生が北上川のヨシを加工して紙をすき、和紙の卒業証書作りに取り組むというものであった。和紙作りを指導したのは、令和六年能登半島地震で被災した、石川県輪島市在住の遠見さんである。遠見さんは輪島市内で「能登仁行和紙」工房をしている三代目の方であり、本来は今年の一月下旬に北上小学校を訪れる予定だったが、工房は震災で、山の水を引いている貯水タンクが壊れてしまい、水浸しになった。また、釜や乾燥機など和紙作りに欠かせない道具も壊れたが、自力で再建し、今年は当初の計画より遅れたものの、ヨシを使った和紙作りを、二〇一四年から毎年児童達に指導している。遠見さんは「ヨシを使った和紙作りは全国的にも珍しく、それが卒業証書になるといった、地域を大切にする活動を応援し、児童達との交流は継続していきたい」と語っている。

原料となるヨシは、北上川河川敷のヨシ原で児童が刈り取ったものを、遠見さんの工房に送り、紙すきの原料に加工し、小学校で児童達が紙をすき、すいた紙を工房に持ち帰り乾燥させ、最終的に卒業証書となる和紙に仕上がる。といった手間ひまがかかる仕事である。

近くを流れる北上川河川敷には、広いヨシ原があるため、地域の活動として取り組んでいる。東日本大震災の時の津波は、北上川河口を五十キロメートルほど上流までさかのぼりました。地盤沈下も起こり、それまであったヨシ原の約半分が失われました。北上川は奥羽山脈と北上山地の支

流を集め、岩手県のほぼ中央を流れ、宮城県石巻市迫波湾に注ぐ全長約二百五十キロメートルの全国でも五番目に長い川です。そこに生えるヨシ原は河口から十キロメートル以上にわたって続き、日本有数のヨシの群生地になっています。ヨシ原には野鳥達が住み、春にはオオヨシギリ、冬は白鳥やカモ類、天然記念物であるオオワシやコクガンもやってきます。ヨシ原に多くの野鳥が集まるのはエサとなる生き物が豊富に生息しており、一メートル以上にも成長するヨシ原は外敵から身を隠しやすく、安心して子育てをすることができからです。さらに、ヨシ原の周辺には昆虫類も多く生存しています。汽水域のヨシ原だけに暮らすヒメイトトンボは絶滅危惧種に指定されている貴重なトンボでこの辺りが生息地の北限といわれています。昆虫の大切な住みかではありません。人間の生活にも密接に関わっています。北上川は、生き物にとって大切な栄養分を支流から多く運んできます。また、ヨシは水質浄化機能があるため、多くの種類の魚介類が美味しく育ちます。このように、ヨシ原は生き物にとって、かせないものであると私は考えています。冬に刈り取られるヨシは、今ではあまり見かけませんが、古くからある神社やお寺のかやぶき屋根や、よしなどに使われています。利用価値の高いヨシを守っていくと、多くのボランティアの方々が清掃活動やヨシを増やすための移植活動を行っています。私の通う学校でも毎年、北上川河川敷でヨシの移植作業を行っています。私も今年の五月末に体験してきました。

私は、生き物にとって大切な水資源を守るための活動は、北上川のヨシ原だけに限らないと思います。これを機に、世界各地で行われている取り組みについても知りたい。そして、これからも水と生き物が共存している世界を目指していきたいと思います。

【入選】

世界の大切な水を未来へ

気仙沼市立唐桑中学校

二年 千葉 梨璃衣

「水、それは私達にとつてどのようなものですか？」と聞かれたらあなたはどうか答えるでしょう。

朝起きたら、顔を洗う。料理をするため、野菜を洗う。服をきたら、洗濯をする。汚れたら、お風呂に入る。トイレに行く。こういった日常生活のさまざまなことに水は関わっています。今までの私は、水を出しっぱなしにする等、水の無駄づかいをしていました。そんな私に水の大切さを教えてくれたのは、父の注意により水について調べたことがきっかけでした。私達日本人は、水道の蛇口を捻るだけで簡単に、しかもすぐに透明で綺麗な水が手に入ります。昔と違い、はるかに便利な暮らしであることがわかります。

しかし、現代を便利で水に恵まれた時代と言っているのでしょうか。そうは言い切れないはずです。世界には深刻な水問題を抱える国があるからです。不衛生な水は、コレラ、赤痢、A型肝炎、腸チフスといった、感染症の伝染と関連しています。世界人口の半数が水道を使えるようになったと言われていますが、未だに六億六三〇〇万人の人が、今も安心して飲める水を確保できていない状態だそうです。特に水を確保できていない地域の半数近くはサハラ以南のアフリカです。

子供たちの四十三%が不衛生な水を飲み、五人に一人が十五歳になる前に亡くなってしまいます。水道施設などインフラが整備されておらず、すぐに水が手に入らない状態のため、村の人々は近くにある水源で、水汲みをしなければいけません。そのため安全で無い十分な水が手に入らず、多くの子供たちが学校へ通えても授業に集中する事ができません。

私達の同じ年齢の子が水問題で苦しんでいる事が分かりました。そして、清潔な水をありがたく感じ大切にしようと思いました。

私達が水の為に出来る事は、まず水を汚さない事だと思います。具体的には、お風呂の残りは再利用。皿についた油やソースは先に拭き取り、洗剤の使用量を減少する事です。

現在の日本の食料自給率は四十七%、残りの五十三%は輸入しています。食料自給率は水に大いに関係しています。農作物、材料を育てるためにはたくさんの水を使います。そのため水の使用量はとても多いのです。なお、日本の一年間の残飯量は約五百万トン近くです。これは世界の水を無駄づかいをしているということです。水を十分に使うことができない国もある中、水の無駄づかいは絶対にやめなければいけない事だと思います。家族全員で食事をする事、好き嫌いをなく食べる事も水の有効活用になると私は思います。

このような事を、一部の人のだけでなく、多くの人が実践していけば水に与える影響は小さいはずです。実践させるために、多くの人が水に関わりを持つことが必要だと思います。私は、記事では地球温暖化しか、水の記事を見たことがないため、記事を使い水の大切さを宣伝すれば良いと考えました。

「水」それは、私達が生きていく上でなくてはならない必要不可欠なものの。一人一人が意識し、心がけることが大事。大きなことはできなくても、ささいなことから、少しずつ実行していけばいい。

ただ、水は失ってからでは遅い。水道から出てくる透明な水を、世界中の人達に、未来へと届けたい。私が始める小さな取組を広め、豊かな水資源と水環境を未来へ繋げたい。

【入選】

大好きな川と海のために

塩竈市立玉川中学校
二年 坂内 聡介

友人から「魚オタク」と、呼ばれる私。魚が泳いでいるのを観るのがいやされる。幼い頃から川や海で遊ぶことが好きで、そこに住む生物との触れ合いから、引きずりこまれるように魚が好きになった。中学生になっても夢中で、川へと出かけている。私にとって、川は身近な存在だ。

私が住む塩釜も、海と川とのつながりがとても深い街である。秋になると、三陸塩釜ひがしものが水揚げされる。塩釜卸市場で採れたメバチマグロのうち、塩釜にいる日本一の仲買人の目によって厳選された最高品質のもの。その希少性は百本に一本。他の市場で水揚げされた優秀なメバチマグロでも、ひがしものにはならない。そんな貴重なメバチマグロだけではなく、サンマやイワシなども豊富で水産業が盛んである。

昨年の夏休みの宿題で「人がつくった荒川」という本に出会った。荒川の歴史をたどりながら、時代に合わせた荒川の役割や水害との向き合い方、未来のために私達が出来る事が分かりやすくとめられていた。

塩釜の水産業が発達したのは、物流の要だった舟運が栄えていたことに気付かされた。「利水」によって、私の今の生活が守られていた。利水とは、川や湖などにある水を私達の生活を豊かにするために利用することである。私がよく訪れる近くの小川は、住宅地の中にある石畳できれいに整備され、手すりが付いてある。見えている川の長さが五メートルほどだから、どこから来ているのか不思議に思っていた。祖母が「四十年くらい前は、塩釜神社の付元まで川が流れていたんだよ。」と、教えてくれた。とても驚いた。調べてみた所、現在の塩釜のおよそ六割が埋め立て地ということが分かった。私の知る塩釜とは違っていた。よく遊びに行く公園、買

い物をするスーパーも水の中だった。その時代の人々が求める形に川を作りあげ、変化し続けた結果が私が魚つりをする小川になったのだ。

海や川だった土地を埋め立てることにいいイメージはなかった。なぜなら、そこに住む生物の生活を大きく変えてしまうからだ。けれど、その本に出会い、価値観は全く変化した。「利水」だけではない。「治水」もだ。

治水とは、大雨のときに川から水があふれ出して家が流されたり、農作物の被害を食い止めるために堤防を作る等の対策を行うことだ。最近は線状降水帯、大型台風による大雨のニュースをよく耳にする。簡単に人の命を奪ってしまう自然災害の強さは恐ろしい。先人達も同じような水害を何度も経験したから、巨大な土木工事を行い、川の氾らんから人の命や生活を守ったのだ。私には川の流れを変える大きな力はないが、家の前にある側溝のゴミ拾いを定期的に行い排水路を確保することで、万が一の被害を最小限に留めることができると思った。

そして、人々が悪い方向に川の姿を変えた「環境保全」という問題がある。高度経済成長期で工場や家庭から流れ出る汚水や汚物によって、ひどいにおいがするからと埋め立てたのだ。本当に自分勝手だなと感じた。小学校の自由研究で海洋ゴミの調査をしたことがある。砂浜に散乱するプラスチック片やビニール袋、花火の残骸が多かった。ゴミの持ち帰りはもちろん、リサイクルゴミの分別は自分にできる行動を続けることが川や海の環境を良い方向へ進めていくはずだ。

安全で豊かな暮らしを支えるために、川を人の力によって形を変えてきたことを学んだ。人が生きるために欠かせない飲み水もきつと先人達の知恵と頑張りが詰まっているのだろう。私の将来の夢は海洋生物学者である。人の生活はもちろん、その場所に住む生物が住ごしやすくなるように研究をして、未来の海をより良いものにつくり変えていきたい。

【佳作】

命の水

気仙沼市立気仙沼中学校

二年 横山 葵

「水を大切にしないさ。」

そう言われたことはないだろうか。私は、親に何度か言われたことがある。しかし、親にそう言われる度に、なんで？別にいいじゃん、いっぱいあるんだし、と思っていた。そのため私は、今まで一度もなぜ水を大切にしないといけないのか考えたことがなかった。しかし、この作文をきっかけに、なぜ水を大切にしなければならないのか考えてみた。

一つ目は人間など、生物は生きるために水は欠かせないということだ。例として、人間の体内の三分の二は水ということだ。もしも人間が水を四日から五日取らなければ、脱水症状になり、最悪死んでしまうそうだ。また、食べ物にも水は欠かせない。例えば私たち日本人の主食である米だ。米は、田んぼで育つ。田んぼといえば、何を想像するだろうか。私は、水を想像する。なぜなら、田んぼ一面に水が張っているのがとても印象的だからだ。私の家には田んぼがあり、水が張っている田んぼを何回も見ているため、とても水が印象に残っている。そんな田んぼに、なぜ水が張っているのかというと、稲は、吸水力が弱く、多く吸水させるために浸しておかないといけないそうだ。そのため、米の成長には、水が欠かせないといえる。他にも畑で野菜や果物を栽培するにしても、肉でも、食べ物のほとんどが水が必要だ。食料の面でも、生きるためには、水の存在が欠かせない。

二つ目は水には限りがあるということだ。地球にある九十七・五パーセントは海洋水で塩分を含んでおり、塩分を含まない淡水は、わずか二・五パーセントしかない。しかも、その内の半分以上が南極や北極にあり、使

いやすい淡水は、全体の〇・〇一パーセントのみらしい。これを知ったとき、とても衝撃を受けた。たったの〇・〇一パーセントだ。水も有限なのに、無駄遣いをしていた自分が恥ずかしいと感じた。

このようなCMをみたことはあるだろうか。それは、アフリカの子どもなどたくさんの方が水不足のため、不衛生な水を飲んでいることを私たちに訴えるCMだ。このCMは、何年か前のCMだったが、今でもはっきりと記憶に残っている。自分より小さい子も、同じ年くらいの子も不衛生な水を飲んでいられるらしい。これを知り、胸が痛くなった。もし自分が生まれていたら？そう考えるだけで恐ろしく感じる。私は生きていける気がしないからだ。それと同時に、今の自分の普段の生活がどのくらい恵まれているのかをとて実感する。日本だといつでも水を飲みたいときは蛇口を捻れば衛生な水が出てきて飲むことができる。そんな私たちにとって当たり前のことが、どれほどありがたいことなのか再確認することができた。

このことから、水に対して自分にできることがあるか考えてみた。それは節水を心掛けることだ。石鹸やシャンプー、洗剤も無駄遣いせず、適切な量だけ使おう。という取り組みだ。この少しの取り組みでも水質汚染を少し防げる。私もシャンプーやせっけんを多く出してしまっているので、これから気を付けていきたい。

この作文を書くまでは、なぜ水を大切にしなければならないのか分からなかったが、この作文を通して水は人が生きていくには欠かせないこと、水には限りがあること。そのため取り組みをしていることを学ぶことができた。この取り組みをする人を増やすために、学んだことを人へ伝えていきたい。

【優秀賞】

一人一人の行動で変わる未来

仙台市立向陽台中学校

三年 高^{たか}畑^{はたけ}花^か音^{のん}

今世界は深刻な水不足にあることを知っていますか。知らなかったり、知っていても全く実感していなかったりする人が多いのではないのでしょうか。実は私もそうでした。蛇口をひねれば必ず水は出るし、夏になればプールなどでたくさん水を使います。「水道代を節約する」くらいは考えても、まさか世界が、そして日本も水不足の危機に瀕しているとは思っていませんでした。

私が水不足のことを調べ始めたのは、祖母との東日本大震災についての会話がきっかけです。震災当時、私は生まれていましたが、まだ一歳。あまりに幼くそのときの記憶は全くありません。そんな私に祖母は当時の様子を細かく話してくれました。祖母が住んでいた場所は地震や津波による直接的な被害はありませんでしたが、ライフラインがストップしてしまいました。ガソリンもなくなり、車も使えなくなったそうです。その時の記憶がない私からすると、電気がない、ガスがない、車がない……というのは大変そうで、どれが欠けても「本当に生活できるかな」と思ってしまうのですが、祖母は、「交通手段や電気、ガスも困ったが一番、水の確保に苦労した。」と言っていました。「交通手段は自転車で、ガスも電気も石油ストーブがあったのでそれで賄えたが、水の代わりはなく本当に苦労した。近くの小学校に水をもらいに行ったが何時間も並んだのに二リットルしかもらえなかった。二リットルのペットボトルを三箱ストックしてあった。一人暮らしなので、家族で住んでいる親戚の家に少し持っていったりもした。自衛隊の人がお風呂を用意してくれ、それに入ったときはとても幸せだった。」などと、次々に出てくるエピソードに驚くとともに、水の大切

さを改めて実感し、水不足について調べてみようという気持ちが沸いてきました。

水不足について調べてみると事態は、思ったよりもずっと深刻でした。今、世界では、世界人口の四十パーセント以上にあたる三十六億の人が水不足に悩まされており、この数値は今後も上がっていくと予想されています。水不足になると、世界の穀物生産の約半分に影響し、水ストレスによるリスクも高くなります。更に今、地球の陸地のおよそ四分の一、約三十六億ヘクタールが砂漠化の影響を受けています。これらの問題は、地球温暖化などによる環境問題や、人口増加や農業、産業の発展による「水の使用量増加」が原因となっており起きているのです。ただ、これは世界全体の話で日本は梅雨や台風もあるから問題ないのではと思う人もいるかもしれませんが。調べてみると確かに日本の平均降水量は世界の平均と比べると約一・六倍に及びます。しかし、たくさん降った雨は、日本特有の急勾配の地形により一気に海や川に流れてしまうので、陸地にとどまる水は限られ、実際に使用できる水の量は、人口一人あたり世界平均のおよそ四十五パーセントしかありません。つまり、日本もいつ水不足になってもおかしくないといえます。

では、水不足の解消のためにどんなことができるでしょうか。私は、油などで汚れた食器はある程度新聞紙などで拭いてから洗ったりするなど、身の回りのできることを考えて実行しています。ですが一人ですることには限られていても微力です。だから、水不足のことをできるだけ多くの人に知ってほしいと思います。一人ですることができることはわずかかもしれないですが、多くの人で少しずつ水の使用量を減らせばきっと大きな力になります。「私達の少しの行動で水不足が緩和されるかもしれない。亡くなる人や、苦しむ人が少なくなるかもしれない。」このように考える人が少しずつ増えていくことを私は願っています。

【入選】

セーヌ川から水質問題を考える

仙台市立上杉山中学校

三年 鶴谷莉子

「え、こんなに汚いところを泳ぐの。」

私はパリオリピックのトライアスロンの中継を見ていて、パリのセーヌ川の様子に衝撃を受けた。パリの華やかなイメージとはかけ離れ、川の水は茶色く濁っていたのだ。透き通ったきれいな川をイメージしていた私は、なぜここまで汚れてしまっているのかと疑問に思った。その理由を父に聞いてみると、生活排水が川に直接流れ込んでしまっているからだと言われてもらった。更に詳しく調べてみると、セーヌ川は古い下水道処理である「合流式下水道」だということが分かった。「合流式下水道」とは、雨水や家庭などの汚水と同じ管路で集め、汚水と一部の雨水を浄化センターまで送り、それ以外の雨水を川や海に放流する方式のことだ。この方式だと、多量の雨が降った場合、一緒に汚水も川に流してしまうため、川や海が汚染されてしまう。パリで環状下水道が作られた頃は、現代のように水質汚染を考えている時代ではなかった。合流式下水道が用いられているため、セーヌ川は汚れているのだ。

では、日本の川は比較的きれいだと言われるが、下水処理の方法がパリとは異なるのだろうか。新たに調べてみると、日本でも古くに下水道を整備してきた東京などの都市部では、合流式下水道が採用されていることがわかった。合流式とは別に「分流式下水道」という下水道処理の方法もある。これは、雨水や家庭などの汚水を、別々の管理で集め、雨水は川や海へ、汚水は浄化センターに送る方法だ。しかし、分流式に変更するためにはたくさん資金と時間が必要となる。そこで日本では、雨の降り始めの特に汚れた下水をためておく施設の整備や、合流式下水道から汚水が川や

海に流れる量を減らすなどの対策を行っている。

私が住んでいる仙台市の下水道処理について調べてみると、中心部や古くからの住宅街は合流式が多いことがわかった。私も何度か川遊びに出かけたことのある広瀬川がきれいなのも、この対策の成果が出ている証拠だと感じた。

私は、ここまで様々なことについて調べてきて、川を汚染する原因についてきちんと理解していないことに気付いた。私が住んでいる地域も合流式下水道が利用されているので対策をしているとはいえ、絶対に汚水が川に流れ込まないということではない。私たちにもできる対策はあるのだろうか。まず、日本の川の水質汚濁の原因として、一番大きなものに有機物が挙げられる。その中でも最大の原因は、家庭の台所などから出る生活雑排水と言われている。かつては、水の汚れの原因は工場などから出る産業排水と言われてきたが、工場などに対する規制が強化され、排水処理対策の進んだ今日では、生活排水が汚れの大きな原因となっているのだ。有機物の例として、食べ残しや飲み残し、料理の作りすぎ、畜産排水などがある。そして、その有機物が最も多く出される場所が家庭である。

そこで、川を汚さないように私たちができる対策を具体的に考えてみた。家庭内で生活排水が多く出される要因として、台所と洗濯の二つが挙げられる。まず、台所でできる対策として、食べ残しを出さないように料理を作りすぎないこと、食器のひどい汚れや油汚れは紙で拭いてから洗うこと、生ゴミを流さないことなどがあると考えた。また、料理をするときには、油はなるべく使い切るようにして、残った場合は牛乳パックに入れた新聞紙に吸わせて可燃ごみとして処理することも挙げられると思う。二つ目の洗濯では、洗剤を正しく計って使うことで川や海を汚すことを防ぐことにつながる。

これらの仕組みや対策を周囲の人に伝え、実践することで、きれいな川を守っていききたいと思う。

【佳作】

「水は命」

大河原町立金ヶ瀬中学校
三年 中^{なか}村^{むら}美^み音^お

水は命だ。人間の体のほとんどは水でできており、それは約六十パーセントにおよぶ。そして、身体中の水が減っていくと様々な症状が表れ、十パーセントの水が失われると、死に至ってしまう可能性もある。だから、人間が生きていくためには、水が必要不可欠なのである。

水は命だ。私たちが食べる食べ物、水がないと作られない。例えば、オムライスを思い浮かべてほしい。まず、上にのっている卵は、にわとりからうまれたものだ。そのにわとりは、約六十パーセントが水分でできており、水がないと生きられない。そして、卵自体も七十パーセントが水分だ。次に、ケチャップライスは、人参、玉ねぎ、米、トマトなどからできている。これらの野菜に含まれる水は、八十〜九十パーセントだ。そして、これらの野菜は水がないと育たない。だから、私たちが食べ物を得るには、水が必要不可欠なのである。

水は命だ。私たちが住んでいる家、着ている服は、水がないと作られない。これら二つの材料は植物だ。植物には、七十〜九十パーセントの水分が含まれており、水がないと育たない。だから、私たちの住まいと服を得るには、水が必要不可欠なのである。

したがって、水はとても重要であり、命といっても過言ではないのである。だが、そんな水は、姿を変えることがある。それは単に氷になるのか、つばに入ればその形になるとか、そういった話ではない。私たちの命を狙ってることがあるのだ。

水は恐ろしい。大雨が降った時、水は容赦なく私たちに襲いかかってくる。洪水、高波浸水などは知つての通りだろう。それ以外にも、土砂崩れ

や土石流、がけ崩れも発生する。ひとえに大雨といっても、それによって引き起こされる災害は計り知れないのだ。

水は恐ろしい。大地震が起きたとき、水はいつもよりも強く、襲いかかってくる。津波となつてのみこんでいく。この場合、人間は無力となる。勝てるすべがない。圧倒的な水の力の前に、ただただ逃げるといふ選択しかないのだ。

水は恐ろしい。災害以外にも、十センチもあれば、人はおぼれる危険性があるのだ。それ以外にも、ひざ下ほどの水だと、動きがとれなくなってしまうこともある。ただの水だといってあなどってはいけないのである。

したがって、水は私たち人間にとって必要不可欠な存在であると同時に、敵にもなりうるのである。だが、水を憎めるだろうか？私は、憎しみより恩のほう浮かぶ。だから、水を守っていききたいと思う。と同時に、世界中に安全な水が行きわたることを望む。

日本の水は、とてもきれいだ。安全基準も高く、水道をひねればおいしい水が出てくる。これは、あたりまえのことと思つてはいけない。世界には、水を得るのも難しく、得られたとしても危ない水であるという国も多い。だから、水を得られることに感謝していこうと思う。

そして、水を守っていききたいと思う。やり方はたくさんある。例えば、川のごみひろいや節水、温暖化対策だ。どれも、水を守ることにつながる。特に、温暖化対策を怠れば、水は、限りある資源となつてしまう。命のために必要な資源に限りがあつては、未来が危うくなつてしまうだろう。

水は、貴重な資源だ。敵となるときもあるけど、人間にとって命なのである。守るべき大切な命なのである。

《第1回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要》

1 作文のメインテーマ

「水について考える」（題名は自由）

2 応募資格

令和6年度に宮城県内に在学中の中学生

3 原 稿

400字詰原稿用紙4枚以内で、日本語により表記された個人作品に限ります。

4 応募締切日

令和6年9月30日（月）必着

5 応募方法

作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に①題名、②学校名（ふりがな）、③学年、④氏名（ふりがな）を記入し、次の送付先に示す宛先に送付してください。

6 問合せ・送付先

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号

宮城県環境生活部 環境対策課 環境影響評価班 あて

問合せ先 電話：022-211-2667（直通）

Eメール：kantaie@pref.miyagi.lg.jp

7 審 査

応募作品を学年ごとに【1年生部門】【2年生部門】【3年生部門】の3部門に組分けし、それぞれの部門ごとに内容が優秀と認められる作品を選考し表彰します。

なお、選考に当たっては、次の観点から審査します。

- ・抽象的あるいは観念的なものでなく、日常の生活や学習、地域における水とのかかわり等を通じて得たことが、具体的に盛り込まれていること。
- ・「テーマ」が的確に設定されており、水の貴重さや水資源開発の重要性、水環境の大切さ等が、中学生らしい視点で記述されていること。
- ・将来の夢や希望、提案等が盛り込まれていること。

8 賞及び賞品

- ・優秀賞：各部門1編程度（賞状、副賞（図書カード5千円分））
- ・入 選：各部門1編程度（賞状、副賞（図書カード3千円分））
- ・佳 作：各部門2編程度（賞状、副賞（図書カード2千円分））

9 全日本中学生水の作文コンクールについて

次年度に第47回「全日本中学生水の作文コンクール」が開催された場合、【1年生部門】【2年生部門】において優秀賞又は入選を受賞した作品を中央審査会に推薦いたします。

(参考)：第46回「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会の賞及び副賞

- ・最秀賞（内閣総理大臣賞）：1編（賞状、副賞）
- ・優秀賞：9編程度（賞状、副賞）
- ・入選：30編程度（賞状、副賞）
- ・佳作：中央審査会へ作文が送付された者のうち、最優秀賞、優秀賞、入選の受賞者を除く者全員（記念品）
- ・一日事務所長体験：最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち、希望者

10 入賞発表

- (1) 宮城県中学生水の作文コンクール

在校する中学校を通じて御連絡します。(令和6年12月頃)

- (2) 中央審査会（全国大会）

在校する中学校を通じて御連絡します。(令和7年7月頃)

※入賞作文については、作文のほか、記載された学校名、学年、氏名を国土交通省及び宮城県のホームページや作品集に掲載するほか、宮城県庁内での展示や報道機関を含めた関係者へも提供することとなりますので、予め御承諾の上、御応募ください。

11 著作権等

- ・応募作品は自作の未発表のものに限ります。なお、生成AIによる生成物は認められません。
- ・受賞後に、不正（他人の作文の盗用など）が発覚した場合は、賞を取り消すことがあります。
- ・入賞作品の使用権は、主催者に帰属します。
- ・応募作品の返却は行いません。

12 個人情報の取扱い

本コンクールの応募作品に記載の個人情報は、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。応募者の同意なく、利用目的を超えて転用することはありません。

13 その他

下記ホームページに募集案内を掲載していますので、御参照願います。

○宮城県

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/r7mizusakubun.html>

また下記の国土交通省 YouTube チャンネルより水循環について学ぶことができますので御活用ください。

○水の循環（YouTube チャンネルに移動します）

https://www.youtube.com/watch?v=CXax03MA1BI&list=PL2RgY_hjimJQ1xNEM4WPPaci7BXEm4HLi&index=1

↓ 県 HP



↓ 国土交通省
YouTube チャンネル



「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者

年度	賞	中学校名	学年	氏 名	作 品 名
第1回 (S54)	国土庁水資源 局長賞	仙台市立五橋中学校	3	阿部 克也	大切な水を考える
第2回 (S55)	入 選	石巻市立住吉中学校	3	池田真希子	水は生命の泉
第5回 (S58)	入 選	仙台市立八木山中学校	3	渡辺 保之	循環の運命をにぎるもの
第6回 (S59)	国土庁水資源 局長賞	仙台市立八木山中学校	3	中村 起也	すばらしい贈り物
第10回 (S63)	入 選	七が宿町立関中学校	2	村上 真希	一滴の水の中に
第11回 (H元年)	入 選	仙台市立八軒中学校	2	杉渕 幹樹	潤いをもたらすもの
第12回 (H2)	入 選	河南町立河南西中学校	3	遠藤 久美	水と私たち
第13回 (H3)	入 選	仙台市立第一中学校	3	石川あかね	山上清水を守ろう
第15回 (H5)	国土交通大臣賞	白石市立小原中学校	1	斉藤 学	水のありがたさ
第16回 (H6)	国土庁20周年 記念特別賞	仙台市立第一中学校	3	佐藤 愛	大地からのプレゼント
第17回 (H7)	入 選	仙台市立第一中学校	1	渋谷 智子	水はみんなの友達
	入 選	宮崎町立宮崎中学校	3	庄子 まり	水に命をかける人
第18回 (H8)	入 選	仙台市立第一中学校	2	渋谷 智子	四谷用水にまなぶ
第19回 (H9)	入 選	仙台市立第一中学校	3	渋谷 智子	水と共に生きる
第20回 (H10)	入 選	本吉町立津谷中学校	2	三浦 大樹	貴重な資源の水
第21回 (H11)	入 選	気仙沼市立松岩中学校	3	佐々木恵美	私たちが守る美しい水
第22回 (H12)	入 選	仙台市立七郷中学校	3	木村可奈子	水とともに生きる
第25回 (H15)	入 選	石巻市立稲井中学校	3	鈴木 舞	水が大好きな祖母
第26回 (H16)	入 選	鳴子町立鬼首中学校	3	遠藤 愛子	水との絆
第30回 (H20)	入 選	石巻市立石巻中学校	3	杉山 智香	水と共に生きる
第33回 (H23)	国土交通大臣賞	石巻市立石巻中学校	3	西牧 奏	水のある風景がなくなって
第34回 (H24)	入 選	石巻市立河南西中学校	3	阿部 美樹	初めて気付いた“水とは何か”
第36回 (H26)	入 選	石巻市立稲井中学校	2	勝然みなみ	少しの意識で変わる未来
第37回 (H27)	入 選	登米市立中田中学校	3	渡邊ちなみ	「意識」を変えろ
第38回 (H28)	入 選	石巻市立河南西中学校	3	土田 琴未	「水」への感謝
第39回 (H29)	入 選	女川町立女川中学校	3	阿部 陽菜	感動を後世へと伝える
	入 選	大崎市立古川西中学校	3	福原 史乃	未来への課題
第40回 (H30)	内閣総理大臣賞	宮城県仙台二華中学校	3	井崎 英里	時をこえて～未来へ～
第42回 (R2)	入 選	仙台市立郡山中学校	3	大柿 楽々	水を守る～野蒜の地から学んだこと～
	入 選	宮城県仙台二華中学校	3	西原 結花	水と共に生きる
第44回 (R4)	入 選	仙台市立郡山中学校	2	増川 智穂	緑が育む美味しい水
第45回 (R5)	農林水産大臣賞	仙台市立郡山中学校	3	辻井 珠希	大好きな景色と水

令和 7 年 3 月発行

宮城県 環境生活部 環境対策課

〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目 8 - 1
T E L 022 (211) 2667

